



【表紙写真】

東京都新宿区の落合・中井エリアで、年1回行われるイベント「染め物の水洗い」をしていた妙法寺川に反物が掲げられ、道行く人々の目を楽しませています。
(今年は2023年2月24～26日に開催)

染め物の街「落合・中井」

江戸時代、染める図柄に合わせて型を彫り、均一な絵柄を染める「型染め」の技法が誕生すると、同じ絵柄の反物を大量生産できるようになりました。幕府によって派手な色柄の着物は禁じられていましたが、江戸では繊細な文様の「江戸小紋」「江戸更紗」が生まれ、庶民もおしゃれを楽しむように。

明治・大正時代になると、きれいな水を求めて染め物職人たちが神田から新宿の落合に移り住むようになり、周辺は「染め物の街」として発展。現在は約10社の染物業者が江戸染色の技法、伝統を守っています。

(9頁では、江戸更紗の型染め体験を紹介しています。)



「染め物の小道」期間中、中井駅周辺の商店街では、染色作家や染色を学ぶ学生が作った「のれん」が飾られました。様々なデザインののれんを見ながらの街歩きが楽しいです。

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2023年5月1日発行 通巻530号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



恒さんが行く！

今 年2月26日付の各紙が伝えた死亡記事『西山太吉さん死去 91歳“沖縄密約”報道』。私の毎日新聞記者時代の先輩記者のご逝去。様々な方々の死亡記事は、私にとってそれぞれが衝撃的だが、とりわけ西山さんは……。

私より7年ほど入社が前の政治記者。豪快そのものの人柄だった。名は秘すが、当時の有力政治家に惚れ込んで、いつの日かその人の政権が実現するのを自らの目標としていたことも、私は知っていた。

私は昭和46年ごろ、本土復帰前の“沖縄特派員”を1年ほどつとめたあと政治部に戻り、当時の防衛庁(現：防衛省)を担当。自民党政府が推し進めていた「第四次防衛力整備計画(四次防)」の策定作業が国会無視の強引なもので、私はもちろん他社の記者も多くが政府批判の論陣をはっていた。

あ る日の政治部のデスクの前でのこと。私が政府批判の記事を提出したのを横で見ていた西山先輩が、いきなり大声で、数枚のコピーを机にたたきつけながら、こう叫んだ。

「おいっ、ツネ！四次防で政府はつぶせるもんか。それより、これだ！沖縄返還の政府密約だ！」

西山記者はその後、沖縄返還をめぐる日米協議で、米国側が負担すべき米軍用地の原状回復補償費400万ドルを日本側が肩代わりするという機密文書を手に入れ、その暴露記事をスクープ。世間にとてつもない衝撃を与えた。政府は、西山記者が当時担当していた外務省の女性事務官から秘かにこの文書入手、報道したとして国家公務員法違反容疑で二人を逮捕。昭和53年、最高裁で有罪が確定した。

西山記者は、その4年前に毎日新聞を退社。秘密文書の開示要求訴訟も実らなかったが、その後、米国側の公文書によって密約の存在が確認されている。

政 府と報道機関の間の闘いは裁判の場でも展開され、ある記者の証言は、新聞記者を学生時代から目指していた私の記憶に鮮明に残っている。「権力は腐敗しやすく、国民に真実をさらすのが報道機関の義務」。沖縄の返還を実現するための交渉の秘策を結んだ政府と、真実を国民たちに伝えるジャーナリズムの使命。「無冠の帝王」という言葉は、いまやあまり聞かれなくなったが、改めて辞典をひもとくと……。

『特別の地位は無いが、強い力のある者。また権力に屈しない者の意で、ジャーナリスト、特に新聞記者の称(大辞林)』。西山さんは沖縄返還50年の昨年、新聞のインタビューに答えて、こう述べている。

「私の取材方法が反社会性を持っていたことは認める。認めるけれど、そういう取材でないと不当な国家機密がとれないところに大きなジレンマがある」。

西山先輩、あなたが残してくれた人間社会への教訓は不滅だと、後輩記者だった私は申し上げます。どうか、ゆっくりとお休みください。

ああ、「無冠の帝王」が、また一人……

代表 鈴木恒夫